

# 1. ザンビア概観



- 1964年の独立以来、内戦やクーデター等深刻な政治的混乱を経験していない**南部アフリカ地域における貴重な安定国家**。1990年に複数政党制に移行して以来、5度の総選挙(大統領補欠選含む)を大きな混乱もなく乗り切り、**民主政治の定着という視点においてもアフリカのモデル国**。(現バンダ大統領は第4代大統領として08年11月に選出された。)
- **経済成長率 6%、インフレ率 10.8%、一人当たりGNI 950ドル**(08年 世銀)、**援助依存率\* 10.9%**(\*歳入に占める一般無償・財政支援・外部借入の割合)(06年 IMF)。09年の目標は成長率 5%、インフレ率 10%以下。
- **対外輸出の6割以上を銅などの鉱物資源が占めるが、政府は産業の多角化を指向。**
- 09年3月、日本政府は1992年以来17年ぶりに**対ザンビア円借款を再開**。  
→「電力アクセス向上計画」。配電網・小水力発電設備の整備。  
交換公文締結:09年3月26日。55億円規模。世銀との協調融資。
- 8カ国と国境を接しており、**地域諸国の経済統合に熱心**。  
南部アフリカ地域を結ぶ「南北回廊」、「東西回廊」の要。  
→日本政府はOne Stop Border Post(OSBP)の第1号候補「チルド橋OSBP」設立を支援(日本の無償資金協力によるチルド橋建設(99年~02年)及び同OSBP運営支援)。

## 2. ザンビアの投資環境

- ザンビア政府は外国からの投資誘致に関心が高く、投資円滑化の窓口として06年に**ザンビア開発庁(Zambia Development Agency)**を**設立**し、機能強化に取り組んでいる。また、汚職撲滅に向け、取り組みを強化。
- 世銀”Doing Business 2010”において順位上昇。  
→サブサハラ・アフリカ中第7位→第6位、全世界で99位→90位  
(因みに中国は89位)。
- 日本政府はザンビアの**投資促進環境整備政策(“Triangle of Hope”)**を**支援**。ザンビア側は重要課題12分野中9分野(注)に関する法制度改善案を策定。  
  
(注:農業、綿花、航空貨物拠点、教育、保健医療、情報通信技術、複合的経済特区、中小企業振興、\*金融、\*行政手続効率化、\*鉱業、観光のうち、\*以外は策定済み。)
- ザンビア政府は、**農業、製造業、エネルギー産業、観光業、鉱業**を**5大優先投資誘致分野として指定**、税制上の優遇措置を行っている。

### 3. 最近の諸外国の投資状況

- 依然、**鉱業（銅山、レアメタル）が主。**  
加系、印系、豪系、南ア系及び中国系企業の投資が活発。
- その他にも、過去1年間、
  - ①**バイオ燃料（ジャトロファ（南ア系企業））、農産物（砂糖（印系企業））等への投資**
  - ②**エネルギー分野への中国の官民の進出**  
(カリバ水力発電所建設(増設)への借款実施。  
大規模なジャトロファ栽培用地確保交渉の噂。)が見られる。

## 4. 想定されうる参入セクターの例

### ●鉱業 (コッパーベルト、北部)

(例: 銅山・銅製品、コバルト、ニッケル、マンガン、レアメタル、レアアース、関連作業機械・部品。ウラン・原油埋蔵の噂有り)

→09年7月、ザンビア政府とJOGMECとの間で鉱物資源に関する協力に係る覚書署名済み。

### ●石油・ガス・バイオ燃料・ジャトロファ (バイオ・ディーゼル)

→09年7月、北西部州で石油・ガス開発の入札実施。複数の国際企業から応札有り。

### ●農産物・農産加工品

(例: 牛肉、ハーブ・薬草類、\*コーヒー、キノコ類、\*たばこ・香辛料、果物、\*花卉(かき)類等) (\*対日輸出実績あり)

### ●観光業

(注: ザンビア単独のみならず、周辺国との組み合わせを視野に入れたものも有望)